

産経新聞

令和元年(2019) 日刊27580号

10|23 [水] 

産経経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所: 産経経済新聞大阪本社 2019

〒656-8000 大阪市浪速区湊町2-1-57

電話: (06)8633-1221(大代表)

〈柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺〉。
俳人、正岡子規が明治28年10月末、
生涯最後の旅で訪れた奈良で詠んだ
句はあまりに有名だ。随筆で柿をむ
いてくれた少女を「梅の精」とほ
ればれと見とれ、食べていると
東大寺の鐘が鳴ったと書く▼
子規は法隆寺も訪れたとされる
が、句の着想は東大寺の鐘を聞
いたときに得たともいわれる。子規
の泊まった旅館跡で「子規の庭」奈
良市今小路町Ⅱが無料開放してい
る。同地にある日本料理店「天平倶楽

湊町 365

部」が子規が見たであろう柿の古木
を見つけ、子規顕彰のため整備した
▼子規の「書斎及び庭園設計」と題
した文と挿絵に沿い子規好みの草花
を植えた。子規の義理の孫の正
岡明さんが庭園設計業を営んで
いたことから設計を担った。子
規が奈良に来た10月26日は「柿
の日」。柿は台風被害を免れ赤く
色づき、同店女将の中塚隆子さんは
「名句が生まれた情景を感じて」。
東京・根岸や松山ではなく、古都で
子規の息吹を感じる秋も楽しい。

2019. 10. 23